



# ふじさわ体協

発行・編集 藤沢市体育協会 〒251-0026 藤沢市鵠沼東3-2 秩父宮記念体育館内  
URL <http://www.fujisawa-taikyo.org/>

## 第40回

# スポーツ人の集い

主催 藤沢市体育協会・藤沢市・藤沢市教育委員会  
共催(公財)藤沢市みらい創造財団

令和6年度第40回「スポーツ人の集い」は、令和7年2月22日(土)午後2時より、第1部講演会、第2部式典を行った。

### 第一部 講演会

## 『パリ大会での金メダル獲得とスポーツの力』

〜共生社会の実現に向け、今、できること〜

講師 木村敬一氏

(東京ガス所属。パラリンピック 日本代表金メダリスト)

### 【講演概要】

パラリンピックは、同程度の障がい度で競うために障がいの程度を14段階に区分している。視覚障がいは障がいの区分の11、12、13にあり、全盲は視覚障がいでは最も重い11レベルとなる。

視覚障がい者は健常者と違い、ゴールとターンの壁の位置がわからないので、壁を知らせるために壁の手前で頭などの身体の一部をたたくタッピングが、パラスポーツ独特で、タイムにも影響する場面もあるため、とても重要となる。また、視覚障がい者の平等性を保つため、ゴーグルのレンズは真つ黒で光を通さないものを着用することが義務付けられている。競技後にゴーグルを検査し、少しでも光が入っていると失格となる。

私は、滋賀県生まれ、2

歳で視力を失った。小学校では運動好きだったが、視覚がないため怪我が多く、母親は思いきり身体を動かさせるのは水泳だと考え、小学校4年〜6年まで、スイミングスクールに通わせ

てくれた。自由形、平泳ぎなど4泳法を泳げるようになった。その後も水泳を続け、高校3年で2008年北京パラリンピックに出場、2012年ロンドンパラリンピックで銀メダル、2013年からは東京ガスで、社会人スポーツとして生活のすべてをハードなトレーニングにあて、精一杯水泳に取り組んだ。

2016年のリオ大会では金メダル有力と言われ、5日間5種目に出場したが銀2個、銅2個の成績だった。目指していた金メダルには届かず、敗北した気持ちのまま、次は東京でパラリンピックが開催されることが決まっていることもあり、出場したいが、どんな気持ちで向かえばよいか、1年程悩んでいた。

2018年に、環境を変えてみようと思い、練習拠点をボルティモア(アメリカ)に移した。パラリンピックのライバルであり、友人となったアメリカ人の金メダリストにSNSで連絡を取り、練習場所や有能なコーチを紹介してもらうことができ、アメリカ生活がスタートした。練習場所はコーチの務めるロヨル大学のプールで、大学の学生寮に住み、水泳の練習の空いた時間で英語の勉強をする日々明け暮れた。

4面へつづく

### 第二部式典

## スポーツ特別賞

岡田 奎樹・吉岡 美帆(ヨット)

第33回オリンピック競技大会パリ2024 男女混合470級 銀メダル



©JSAF



第33回オリンピック競技大会のセーリング男女混合470級にて

銀メダルを獲得しました。セーリング競技でのメダル獲得は20年ぶりの快挙です。

濱田 琉誠(山岳・スポーツクライミング)

IFSC世界ユース選手権 貴陽2024

ボルダーユースB男子1位  
リードユースB男子2位  
ユース日本代表、2シリーズ



ン目。熾烈な世代の中でも安定した結果を残しています。佐賀国民スポーツ大会では、16年ぶりの少年男子ボルダーで優勝し、天皇杯3位。今や神奈川県、いや日本ユースの中心選手です。

## 体育功労者

中溝 章(野球)



平成5年に神奈川県高校野球審判員として登録されて選手に信頼されるジャッジに常に努めています。体育協会の理事も永年努めており、発言力もあり常に先頭で指針となる行動は、後輩のお手本となっています。

東 昭一(山岳・スポーツクライミング)



会長就任以来、登山とスポーツクライミングの普及活動に尽力され、平成26年組立式ボルダー壁導入、令和6年リード壁増強を主導し、秋葉台文化体育館実施のこともスポーツまつり参加者数が倍増。累計参加者は現在1万人に達します。また市内公民館と連携してスポーツクライミング体験会を実施し、普及活動の基盤づくりに尽力されました。

河合 正博(柔道)



藤沢市柔道協会役員・会長として半世紀に渡り、協会の活性化と競技の普及に尽力されました。得意の語学を活かし、毎年オーストラリアから来日の中高生へ指導を行うなど国際交流にも貢献しています。

関野 治夫(空手道)



空手競技の普及、振興に尽力されています。常に連盟内部をとりまとめ、副理事長としての指導力で藤沢市空手道連盟をまとめています。

優秀選手

片貝夕起(陸上)

第25回記念東日本マスターズ陸上競技選手権大会 ミズノ杯女子 50歳〜54歳の部 60m/100m 1位

佐藤瑠歩(陸上)

第97回関東陸上競技選手権大会 女子4×100mリレー 優勝

宮田 風(陸上)

第97回関東陸上競技選手権大会 男子走高跳 優勝

岩田夏穂・溝井美月(ソフトテニス)

第75回関東高等学校ソフトテニス選手権大会 女子個人戦 優勝

佐藤尚吾(水泳)

日本スポーツマスターズ2024水泳競技 長崎大会 100m平泳 優勝 200m個人メドレー 3位

原田幸太郎(水泳)

第21回関東オープンフィンスイミング大会 サーフイス1500m 優勝(ジュニア日本新)

仲田和樹(山岳スポーツクライミング)

IFSC世界ユース選手権 貴陽2024 ボルダージュスB男子 3位 リードユースB男子 4位

仲田永和子(山岳スポーツクライミング)

IFSCアジアユース選手権 ジャムシールド プル2024リードユースA女子 4位

濱田琉碧(山岳スポーツクライミング)

第10回関東小中学生選抜スポーツクライミング選手権大会 中学生男子 1位

明樂賢一(柔道)

Las Vegas World Championships Veterans 2024 M6(男子55〜59歳) 66kg級 優勝

阿部 守(柔道)

2024年日本ベテランズ国際柔道大会 第18回日本マスターズ 柔道大会 M9 66kg級 準優勝

齋藤龍史(柔道)

2024年日本ベテランズ国際柔道大会 第18回日本マスターズ 柔道大会 M3 60kg級 優勝

板垣紀恵(空手道)

第4回全日本実業団空手道選手権大会

マスターズ組手競技 3位

片野真琴(空手道)

第13回関東少年少女空手道選手権大会 女子団体形 優勝

小島実紗(空手道)

第13回関東少年少女空手道選手権大会 女子団体組手 優勝

高橋果歩(空手道)

第13回関東少年少女空手道選手権大会 女子団体形 優勝

野中詩友(空手道)

第13回関東少年少女空手道選手権大会 女子団体形 優勝

原田明莉(空手道)

第55回関東空手道選手権大会 組手成年女子 55kg級 優勝

宮國 淳(空手道)

日本スポーツマスターズ2024長崎大会 空手道競技男子形1部 準優勝

梅田真由美・塚本ひとみ(テニス)

第86回地主株式会社全日本ベテランテニス選手権 24 女子50歳以上ダブルス 優勝

遠藤葉吾(テニス)

全日本ジュニアテニス選手権 14歳以下シングルス 優勝 14歳以下男子国別対抗戦・ワールドジュニア決勝大会 8位

小野潔子(ゲートボール)

第78回国民スポーツ大会SAGA2024 (公開競技)ゲートボール競技会 女子 優勝

榎園愛子(ゲートボール)

2024年度JOCジュニアオリンピックカップ兼JSAFジュニアユースセーリングチャンピオンシップ(ジュニア部門) ILC A4クラス 1位

飯東潮吹・西田カピリア桜良(ヨット)

第33回オリンピック競技大会パリ2024 男女混合Nacra17級種目 出場

池田海人(ヨット)

30周年記念2024年度全日本学生ヨット個人選手権大会 470クラス 1位

池田航介(ヨット)

第78回国民スポーツ大会セーリング競技会 少年男子420級 2位

2024年第37回全日本420級セーリング選手権大会 総合 1位

岩波萌夏(ヨット)

ILCA4 All Japan Championships 総合3位

遠藤海之流(ヨット)

令和6年度全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会 第65回全国高等学校ヨット選手権大会 男子ILCA6級 1位

加原賢人(ヨット)

第56回全日本オプティミスト級セーリング選手権大会 総合3位

加原弦季(ヨット)

第78回国民スポーツ大会セーリング競技 少年男子ILCA6級 優勝

服部春花(ヨット)

令和6年度全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会 第65回全国高等学校ヨット選手権大会 女子ILCA6級 1位

石川夕真(ボウリング)

第41回全日本実業団都市対抗ボウリング選手権大会 4人チーム戦 優勝

川合亜門(ボウリング)

文部科学大臣杯第61回全日本ボウリング選手権大会 2人チーム戦 3位

菅野直人(ボウリング)

文部科学大臣杯第61回全日本ボウリング選手権大会 3人チーム戦 優勝

滝 聖也(ボウリング)

第56回宮様チャリティーボウリング大会 3位

滝沢 樹(ボウリング)

第56回宮様チャリティーボウリング大会 優勝

鶴見亮剛(ボウリング)

文部科学大臣杯第61回全日本ボウリング選手権大会 3人チーム戦 優勝

畑 秀明(ボウリング)

第41回全日本実業団都市対抗ボウリング選手権大会 4人チーム戦 優勝

村上悦男(ボウリング) 経済産業大臣杯第50回全日本実業団産業別ボウリング選手権大会 B部門 準優勝

村上知子(ボウリング)

経済産業大臣杯第50回全日本実業団産業別ボウリング選手権大会 B部門 3位

笠原信子(ボウリング)

第19回関東ブロックバウンドテニス選手権大会 ミドル女子シングルの部 優勝

首藤智恵・堀 木綿子(バウンドテニス)

第19回関東ブロックバウンドテニス選手権大会 ミドル女子ダブルスの部 優勝

首藤廣明・萬徳哲典(バウンドテニス)

第19回関東ブロックバウンドテニス選手権大会 ミドル男子ダブルスの部 優勝

谷村浩貴(バウンドテニス)

SAGA2024国民スポーツ大会(公開競技)バウンドテニス競技会 神奈川県男子 優勝

今井康平(サーフィン)

NSA第58回全日本サーフィン選手権大会 LMメンクラス 3位

加計正成(サーフィン)

NSA第32回ジュニアオープンサーフィン選手権大会2024 SMジュニアメン 優勝

菅谷帆那(サーフィン)

NSA第32回ジュニアオープンサーフィン選手権大会2024 SWジュニアウイメン 優勝

杉澤嘉洋(サーフィン)

NSA第58回全日本サーフィン選手権大会 BMマスタークラス 3位

竹森喜和(サーフィン)

NSA第58回全日本サーフィン選手権大会 LMメンクラス 優勝

土屋貴洋(サーフィン)

NSA第58回全日本サーフィン選手権大会 LMシニアクラス 優勝

登坂祐妃(サーフィン)

NSA第58回全日本サーフィン選手権大会 SWガールズクラス 3位

中園菊乃(サーフィン)

NSA第58回全日本サーフィン選手権大会



LWグランドマスタークラス 優勝  
増田知大(カヌー)  
令和6年度日本カヌースプリントマスターズ  
選手権大会 男子C-1(カナディアンシン  
グル)30~39歳 優勝

猪俣凌哉(スケートボード)  
XGAMES CHIBA 2024 バートクラス 2位  
第7回マイナビ日本スケートボード選手権  
大会パークスタイル 優勝

能勢 想(スケートボード)  
フルボン Presents WINGRAM CUP2024 VOL.2 JSF  
バーチカルシリーズ秩父スケートパーク2位  
フルボン Presents WINGRAM CUP2024 VOL.1 JSF  
バーチカルシリーズ 優勝

藤沢市立鷗沼中学校女子リレーチーム(陸上)  
第52回関東中学校陸上競技大会  
女子4×100mリレー 優勝

藤沢市立六会中学校男子リレーチーム(陸上)  
第51回全日本中学校陸上競技選手権大会  
男子4×100mリレー 優勝

第52回関東中学校陸上競技大会  
男子4×100mリレー 優勝

湘南ヴィンテージクラブ(ハレーボール)  
第15回全国ヴィンテージ8's交流大会  
50歳以上の部 Bトーナメント戦 優勝

青年藤沢(ハレーボール)  
日本スポーツマスターズ2024長崎大会  
ハレーボール競技 準優勝

岸田クラブ(卓球)  
第42回全国ホープス卓球大会 男子団体 3位  
湘南工科大学附属高校男子テニス部団体チーム  
(テニス)

令和6年度全国高等学校総合体育大会  
テニス競技大会 優勝

岩澤 巧(陸上)  
令和6年度第62回神奈川県高等学校総合  
体育大会 男子走高跳 優勝

小池大晴(陸上)  
第79回神奈川県陸上競技選手権大会  
少年男子B 3000m 優勝

令和6年度第77回神奈川県高等学校駅伝  
競走大会 優勝  
齋藤祥太郎(陸上)  
第79回神奈川県陸上競技選手権大会  
一般男子円盤投 優勝

富松慶貴(陸上)  
第58回神奈川県中学校総合体育大会  
第77回神奈川県中学校陸上競技大会  
共通男子100m 優勝

穂村泰吾(陸上)  
第77回神奈川県高等学校駅伝競走大会 優勝  
三浦大翔(陸上)  
第58回神奈川県中学校総合体育大会  
第77回神奈川県中学校陸上競技大会  
男子砲丸投 優勝

箕輪和真(陸上)  
日清食品カップ令和6年度神奈川県小学  
生陸上競技交流大会 5年男子100m 優勝  
村上祥太郎(陸上)  
第79回神奈川県陸上競技選手権大会  
男子4×400mリレー 優勝

中村夏希・市川結菜(ソフトテニス)  
第58回神奈川県中学校総合体育大会  
第60回神奈川県中学校 ソフトテニス大会  
女子個人戦 優勝

秋本竜之介(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 20歳~24歳 100m平泳 優勝  
50m自由形 優勝

池田裕司(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 70歳~74歳 50mバタフライ 優勝

勝間田周子(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 50歳~54歳 50m平泳 優勝

北島靖浩(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 60歳~64歳 50m平泳 優勝

清水禎児(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 50歳~54歳 100mバタフライ 優勝

杉本要(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 60歳~64歳 50mバタフライ 優勝

原田和昌(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 80歳~84歳 50m背泳 優勝

原田岳美(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 70歳~74歳 50m自由形 優勝

松浦由佳(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 25歳~29歳 50mバタフライ 優勝

松尾盛史(水泳)  
第13回かながわスポーツマスターズ水泳競  
技大会 40歳~44歳 100m背泳 優勝

菅田湘海(カヌー)  
第60回神奈川カヌースプリント選手権大会  
中学男子カヤックシングル 1位

藤沢市立鷗沼中学校陸上競技部女子(陸上)  
第58回神奈川県中学校総合体育大会  
第77回神奈川県中学校陸上競技大会  
女子総合 優勝

藤沢市立鷗沼中学校女子駅伝チーム(陸上)  
第58回神奈川県中学校総合体育大会  
第39回神奈川県中学校女子駅伝競走大会  
優勝

藤沢市立六会中学校陸上競技部男子(陸上)  
第58回神奈川県中学校総合体育大会  
第77回神奈川県中学校陸上競技大会  
男子総合 優勝

鷗沼高等学校女子バスケットボール部  
令和6年度神奈川県高等学校秋季バスケット  
ボール大会兼ウィンターカップ2024  
令和6年度第77回全国高等学校バスケット  
ボール選手権大会神奈川県予選会 優勝

藤沢市立鷗沼中学校サッカー部(サッカー)  
令和6年度第58回神奈川県中学校総合体  
育大会(全国予選)

第67回神奈川県中学校サッカー大会 優勝

### 令和6年度賛助会員

個人55件 団体45件

■個人会員の芳名(順不同・敬称略)

- 木村研治・井手勝記・荒井勝男・山田康章・青木正己・栗原義夫・市川和広・加藤佳子・滝内洋子・小堺幸子・露木初枝・坂根隆志・鈴木和子・遠藤浩・松長泰幸・小菅春夫・武井英雄・石曾根和幸・栗原英昭・栗原幸浩・廣川亜希子・林修司・新村幸裕・三橋智穂・山口淳史・吉本悠・内田雅代・吉田淳基・井田勝・古郡健・前川幸雄・飯田栄一・田口元明・木藤晴彦・古郡佳州美・三浦友紀子・萩野谷真紀子・三疇美範・宮崎陽子・大里健次・高塚良彦・中島嘉一・与安義昭・桜井忍・波多野和敬・宮本隆弘・中村智・石井洋秀・加藤孝幸・三保谷歩・小川武志・福田光春・阿部守・古屋元氣・花輪晴彦

■団体会員の芳名(順不同・敬称略)

- バドミントン協会・藤沢警察署少年剣道推進会・バウンドテニス協会・カヌー協会・ゲートボール連合・体操協会・南関東日野自動車(株)湘南支店・剣道連盟ラグビーフットボール協会・中央機工(株)・レストランふじ(株)アルペンソフトボール協会・サッカー協会・サッカー協会社会人委員会・サッカー協会高校委員会・サッカー協会中学委員会・サッカー協会少年委員会・サッカー協会女子委員会・山岳・スポーツクライミング協会・サーフィン協会・バスケットボール協会・自転車協会・野球協会・水泳協会・スキー協会・弓道協会・アーチェリー協会・テニス協会・ハンドボール協会・柔道協会・卓球協会・ボウリング協会・グラウンドゴルフ協会・太極拳連盟・空手道連盟・射撃協会・ハレーボール協会・陸上競技協会・ダンススポーツ連盟ソフトテニス協会・ヨット協会・ゴルフ協会・スケートボード協会 (加盟団体については藤沢市略)



本年度もご入会いただき  
ありがとうございますございました

一面からつっき

アメリカ生活で感じたことは、日々、障がい者に対して、気軽に声をかけてくれた。遠慮せず何度も話しかけてくれるので、こちらも気を遣わずに済む。また水泳面で痛感したことは、欧米人との基礎的体力の差である。日本人の自分は練習前に30分程度はストレーチなどのウォーミングアップをする人が殆どだが、欧米人はアップもせずいきなりプールに飛び込み全力で泳いでも平気で、基本的なフィジカルの違いを認識した。アメリカ人の練習への向き合い方やメンタル面の強さなどを学び、その後の財産となった。アメリカにはコロナ禍もあり、2020年3月までいて帰国を余儀なくされた。

2020年開催予定の東京パラリンピックは延期を経て、2021年8月に無観客で開催され、100mバタフライで初めて金メダルを獲得することができた。レース前は緊張で2時間しか眠れず、疲労困憊の中でゴールし金メダルと知った時にはうれしいというより、ようやく終わったという感じがした。表彰式では一位になった国歌が流れるのだが、君が代を聞きながら金メダルを実感した。東京2020大会以降は、水泳以外のことも挑戦し、それまで知らないことや様々な人たちと出会い、自分の幅を広げることができた。競技面ではこれまで多くの人に非常に無駄の多い動きをしていと言われてきたことから、今後年齢を重ねていく上で、さらに技術力の改善が必要と考え、フォームの改善に取り組んだ。オリンピックでバタフライ2大会銅メダリストの星奈津美さんに、コーチを依頼し、取り組みをスタートした。その中で言葉での説明はもちろん水中での指導も並行して行っていたが、お互いのイメージを合わせていくことが難しく、通常よりも時間もかかり、苦労の連続だった。

2024年8月パリパラリンピックは1万8千人の観客の応援があり大歓声の会場の中で泳げたことは大きな幸せだと感じた。フォーム改善は自分の知らないことが多く、取り組むことが多すぎて、十分にでききれない状態が本番に臨んだ。腹筋を使った姿勢の改善効果もあり、50mフリーで自身の日本新記録を更新し金メダル、100mバタフライではオリンピック記録を更新し、金メダルを獲得、2冠、2連覇を遂げる事ができた。

今回のテーマである共生社会については、障がい当事者として考えることは様々な人が存在することを特別と感じない社会、違いがあることを楽しめる社会、だれもが遠慮せずに暮らせる社会、であってほしいし、障がい者がどんどん社会に出ていくこ

とで、お互いの思いやる心が生まれ、街自体がやさしくなっていくのではないかと思っている。また日常生活の配慮は障がいの程度と何が困っているかは人によって違うので、特別な気遣いはせず気軽に声を掛けてくれる事こそがうれしい。

今後は、何よりもまず、パラスポーツを観戦してほしい。パラアスリートたちの工夫と無限の可能性を、観てスポーツを通じて、共に心を震わせたい。

自分の人生は、水泳を通じて、自分に自信を持てるようになり、多くの友達が得ることができたことが幸せだと感じている。

(田窪)



児童体操祭

## 児童体操祭

2月9日に児童体操祭が開催され、市内の教室やクラブに通う児童を中心に204名が参加しました。秋葉台文化体育館がオープンした1984年からスタートした大会も40年の節目を迎えましたが、当初から地域の体操教室やクラブの練習成果発表の場として、またマット運動から競技用のゆかフロアでの演技など、体操・新体操それぞれの競技特性を軸にしながら成長段階に合わせた独自ルールを工夫するなど、参加しやすい競技大会を目指して市体操協회가主催しています。

体操は逆さになったり回転したり、様々な姿勢や動作を通して体幹やバランス感覚など基礎能力が鍛えられるので、運動に苦手意識がある子どもにも種目体験、大会参加してもらえたらと思います。(栗原)

## 快挙 アーチェリー 日本記録樹立!

藤沢アーチェリー協会所属の安藤智俊さんが、公式戦男子50歳以上リカーブ60m、インドア18mで好成績の1位となり、全日本アーチェリー連盟より今年1月、正式に日本記録として認定されました。ご本人のコメントを紹介します。

「まさか自分が日本記録保持者になるとは思っていませんでした。これはひとえに御所見アーチェリークラブの環境が非常に良いということです。50歳以上の方の励みとなり、これからも自分の記録を自分で更新できるよう頑張っていきたいと思います。」

安藤さん!おめでとうございます!

(白川)



認定証

## 加盟団体会長会の開催



ダンス

2025年1月11日(土)に藤沢商工会館ミナパークで、加盟団体会長会を、来賓及び加盟団体の役員を含め113名の参加のもと、昨年に引き続き開催した。

## 子どもたちのダンスに拍手



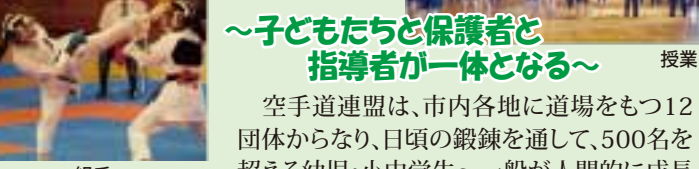
子どもたちの紹介

藤沢市では、2021年10月1日に「藤沢市スポーツ都市宣言」を行い、健康で豊かなスポーツライフの実現をめざしている。この宣言によって、藤沢では子どもから高齢者まで、多世代にわたる市民がいつそうスポーツに親しんでおり、この数年若い世代の活躍が目覚ましい。各加盟団体が、競技の普及を目指して、大会開催のみならず、技術力の向上にも努めている成果が結びついているのだろうと思う。

そして、会の半ばに特別出演していただいた、HANAエンタープライズの19名の子どもたちによるスピーディーで丸となったダンスの舞は、参加者の皆さんを魅了した。国内外のダンスコンテストで優秀な成績を残している「HANAエンタープライズ」は、生涯学習のダンスで豊かな人生を!をモットーに辻堂エリアを中心に活動をしている。

子どもたちの見事なダンスに大きな拍手が送られた。(杉淵)

## 空手道連盟の紹介



組手

### 子どもたちと保護者と指導者が一体となる

授業

空手道連盟は、市内各地に道場をもつ12団体からなり、日頃の鍛錬を通して、500名を超える幼児・小中学生～一般が人間的に成長することを目指している。

空手には、相手と対戦する「組手」と一人で演武する「形」の種目があり、各人の体格や好みにマッチできるスポーツと言える。競技の特徴は、スピード感、美しさ、キレと言える。肉体の鍛錬を通して、技術を身につけ、子どもたち自身が感じたことを、他の競技者に伝えることにより、世代を通しての共感が生まれてくる。

このような空手を、小中学生に一層知り、体験してもらうために、中学校の授業で取り入れることができないかという働きかけを教育委員会にこの数年行ってきた。その結果、2024年から、市内の善行中で授業に取り入れていただいた。生徒の安全安心に配慮しながら、教員と生徒とのコミュニケーションを築いてきたことが授業の実現に繋がったと思う。これからも子どもたち、保護者、指導者の三位一体の空手道の活動を続けていきたい。

(空手道連盟 宮國さんにインタビュー)

## 編集後記

- 木村敬一さんの講演には参加された皆さんから賞賛の拍手が送られた。視覚障がいがありながら、パラスポーツ選手としての競技に対する真摯な姿勢やご自分の人生を語られたことに多くの方が共感された。
- 子どもから高齢者まで、世代を通してスポーツに取組むことが藤沢では当たり前になっている。加盟団体の活動から知ることができた。(杉淵)